

有峰の晩秋に彩りをそえるコマユミほか

2021年10月27日

報告者:有峰森林文化村 石黒 秀雄

編集者:有峰森林文化村 田島 敏美

有峰は10月後半に入り朝の最低気温が5℃を下回る日もあります。紅葉は日毎に異なる表情を見せています。薬師岳の雪との対比も見事です。有峰湖周辺の紅葉は、カエデの仲間などがモザイク的に、見ることができます。紅葉の木々のうちニシキギ科(錦木)の紹介です。有峰ではニシキギ科の樹木は、マユミ、コマユミ、ツリバナ、ヒロハツリバナ、ツルウメモドキ、ツルマサキの6種が記録されています⁽¹⁾。よく見かけるのはコマユミです。



カエデの仲間



ツタウルシ



ヤマブドウ



ヤマウルシ

コマユミ(小真弓)

【分類】ニシキギ科ニシキギ属。

【分布】北海道～九州。落葉低木。

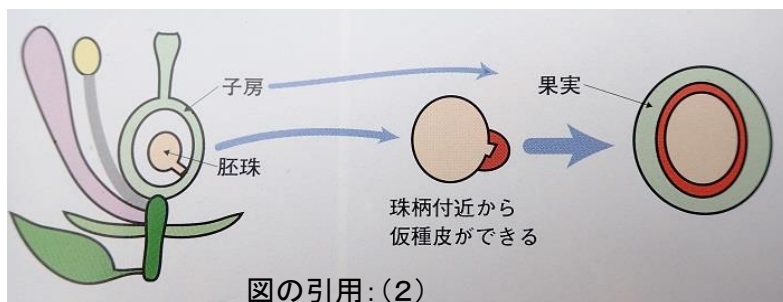
【葉】長さ2～9cm 長楕円形または倒卵形 両面無毛。

【果実】1～2個の分果。仮種皮(かしゅひ)からなる。

仮種皮:種皮とは別に胎座や胚珠を子房につなぎ止める珠柄付近や珠孔付近からつくられ、果実の成長とともに大きくなる。2色効果が目立ち、種子散布のためとされている。コマユミをはじめニシキギ科の果実はこの作戦をとる代表⁽²⁾。



コマユミの紅葉:冷夕谷遊歩道2021年10月18日撮影



図の引用:(2)



コマユミの果実と仮種皮



マユミの果実：冷夕谷遊歩道2021年10月18日撮



ツルウメモドキの果実：猪根平2021年10月25日撮影

【冬芽】花や葉は形や色の変異が大きい一方、冬芽(とうが)は形態の差がほとんどなく種の同定には適しているとされています⁽³⁾。紅葉だけでなく、果実や冬芽に注目できれば、有峰の森の息吹を一層感じることができます。



コマユミ：枝の先端に頂芽を1個つけ長さは3～7mm、7～8枚の芽鱗に包まれ側芽よりやや大きい。側芽は対生。



ツリバナ：枝の先端に頂芽を1個つけ長さは6～15mm、7～10枚の芽鱗に包まれ側芽より大きい。側芽は対生。

引用(1) 富山市科学文化センター 1996有峰地域自然環境調査報告

(2) 花からたねへ 小林正明著 全国農村教育協会

(3) 冬芽でわかる落葉樹 馬場多久男ほか 信濃毎日新聞社